

観点		発行者	東京書籍	教育出版	清水書院	帝国書院	
1 かな人間性の育成や第二期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえ、豊	(1) 「教科に資する内容の達成、構成として、本県教育が目的を指す人間像」の教育成	地理	「深めよう」やコラムのコーナーで伝統産業、伝統文化、民話などを取り上げ、歴史的背景などと関連付けて理解することで、我が国や郷土に対する理解や愛情を深めることができるよう配慮されている。	「日本の諸地域」の単元では、「現代日本の課題を考えよう」を7箇所設け、環境問題、過疎化、防災など様々な課題に向き合う住民の取組を紹介し、社会に参画する意欲が高まるよう配慮されている。	/	「日本の諸地域」の単元では、「地域を探ろう」を6箇所設け、環境保全・地域おこし・多文化共生など様々な社会の変化に対応する自治体や企業の取組を紹介し、社会に参画する意欲が高まるよう配慮されている。	
		歴史	巻頭口絵に「日本の国宝」及び「日本の世界遺産」の写真を数多く掲載し、詳しく解説することで、我が国や郷土の伝統・文化に対する理解を深め、誇りに思いう心を養えるよう配慮されている。	特設ページ「人物から歴史を探ろう」において、歴史上の人物だけではなく、社会を築き、動かしてきた庶民の営みを紹介することで、社会の形成と発展に主体的に参画する態度をはぐくむよう配慮されている。		その時代に活躍した人物を取り上げたコラムにおいて、人物の生き方及び歴史上で果たした役割を詳しく解説することで、社会の形成と発展に主体的に参画することの必要性が理解できるよう配慮されている。	「地域史」「人物コラム」において、社会の形成にかかわってきた様々な人々の姿や地域の特色を紹介することで、社会の形成と発展に主体的に参画する態度をはぐくむことができるよう配慮されている。
		公民	「現代の民主政治と社会」では、導入部に有権者の視点による学習を設定し、終末には立候補者の視点から政治の在り方を主張する課題を示してあり、学習を通して、主体的に社会参画する意欲が高まるよう工夫されている。	「持続可能な未来へ」では「未来への私の約束事」をつくらうという主体的な活動に取り組みせることにより、持続可能な社会への参画意欲が高まるよう工夫されている。		「私たちが現代社会」のまどめにおいて、「文化」「少子高齢化」「情報化」「グローバル化」など、国や社会の問題を自分自身の問題とすることで、意欲的に学習活動に取り組みめるよう配慮されている。	「現代社会の見方・考え方」では、「対立と合意」、「効率と公正」の観点からロールプレイングによって課題解決を図る工夫がなされており、社会の問題を自己の問題としてとらえ、主体的な学習が行えるよう配慮されている。
	(2) 材が郷土扱い「長崎」を伝えているか。文化や歴史を生かせる自然	地理	「九州地方」では、最初のページに「環境問題・環境保全に向き合う人々の暮らし」という学習テーマの関連資料として「諫早湾の干拓事業地」の写真を掲載している。	「九州地方」では、「環境問題と環境保全」の学習テーマに関連する資料として諫早湾の干拓について2種類の写真を紹介している。	/	「世界と比べた日本の地域的特色」の「日本のさまざまな自然災害」では、雲仙岳の火砕流の写真が紹介されている。	
		歴史	鎖国下の対外関係に関して、島原・天草一揆、出島における貿易、朝鮮通信使の様子が絵画・図表付きで取り上げられている。また、「新しい生活と文化」において、本県出身の梅屋庄吉が紹介されている。	元寇に関して、松浦市所蔵の「てつぼう」と「かぶと」の写真が掲載され、図中にはかわりが深い本県各地が示されている。また、島原・天草一揆や出島における貿易、朝鮮通信使について絵画資料付きで取り上げられている。		「朝鮮との関係」において、朝鮮通信使にかかわる雨森芳州がコラムで詳しく紹介されている。また、蘭学に関して、シーボルトがコラムで紹介されている。第5巻巻頭には被爆前後の浦上天主堂とその周辺の写真が掲載されている。	島原・天草一揆に関する特設ページにおいて、当時の文書、絵画や地図が掲載され、資料を基に歴史をとらえ考察することができるよう配慮されている。また、コラムで孫文と梅屋庄吉の交流が紹介されている。
		公民	「私たちの生活と文化の役割」の宗教に関する項では、現存する最古の教会として大浦天主堂の写真が紹介されている。	「住民参加で地域をつくる」では、佐世保市の子ども育成条例の内容と旧小長井町での採石場の新設・拡張に関する住民投票の結果が紹介されている。		「自衛隊と日本の安全保障」では、日本国内におかれた米軍の主な施設の一つとして、佐世保市が地図上で記されている。	「日本の平和主義」において、8月9日の長崎市の平和祈念式典のようすが写真で紹介されている。

観点		発行者	日本文教	自由社	育鵬社	学び舎	
1 かな 人間性 の育成 の理念 や第二 期長崎 県教育 振興基 本計画 の趣旨 ・内容 を踏ま え、豊	(1) 教科の 特質に 応じて 、「本県 教育が 目指す 人間像 」の育 成の目 的が、	地理	「日本の諸地域」では特設ページ「地域からのメッセージ」を7箇所設け、地域を守ろうとする人々の姿に学ぶことで社会に参画する意欲が高まるよう配慮されている。				
		歴史	特設ページ「歴史を掘り下げる」や「先人に学ぶ」において、人権・環境・平和などの課題や社会の発展に寄与した先人の姿を取り上げることで、社会の形成と発展に主体的に参画する態度をはぐくむよう配慮されている。	コラム「外の目から見た日本」において、日本人の自制心・克己心・他者への思いやり・自己犠牲などの精神文化を紹介することで、我が国の歴史に自信と誇りを持つことができるよう配慮されている。	コラム「人物クローズアップ」や「なでしこ日本史」において、献身・勤勉などの美德を体現した人物や各時代を代表する女性を紹介することで、我が国の歴史を具体的に理解させ、国民としての自覚を育てるよう配慮されている。	章ごとにテーマに沿った世界各地の事物を紹介し、日本と比較することで、広い視野を持って歴史を学ぶ必要性を理解し、社会の形成と発展に主体的に参画する態度を養うことができるよう配慮されている。	
		公民	「持続可能な社会をめざして」では、「これからの社会をどんな社会にしたらい？」というテーマの下、国や社会の問題を積極的に考えることで、社会参画のための意欲が高まるよう配慮されている。	巻頭口絵の「すごいぞ日本の技術は」において、世界に先駆け、日本が開発した先端技術や材料等の高い技術力を紹介し、我が国に対する自信と誇りが高まるよう配慮されている。	「社会科のまとめ」では、「私は内閣総理大臣『持続可能な社会』を築いていくための国づくり構想を立てよう」のテーマ学習を設定するなど、主体的に社会参画する意欲が高まるよう配慮されている。		
	(2) 郷土に あふれ る文化 や歴史 の自然 資源を 活用し て、	地理	巻末で、暫定リスト掲載遺産である「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の大浦天主堂が掲載されている。				
		歴史	元寇に関して、松浦市鷹島神崎遺跡が特設ページで紹介されている。また、鎖国下の対外関係に関して、島原・天草一揆や朝鮮通信使について地図・年表付きで取り上げられており、雨森芳州が肖像画付きで紹介されている。	コラム「元寇と朝鮮半島」において、対馬における宗助国の奮戦をはじめ本県内での戦いの様子が紹介されている。また、鎖国下の対外関係に関して出島の貿易や朝鮮通信使について地図付きで取り上げられている。	「世界の宗教と日本」において浦上天主堂が、また、鎖国と海外交流に関して、復元された平戸オランダ商館が取り上げられており、第6章巻頭には佐世保重工業で建造された大型タンカー日章丸がそれぞれ写真付きで取り上げられている。	「江戸を行く朝鮮通信使」において、対馬藩の役割、雨森芳州の業績が取り上げられている。また、原爆投下後の長崎の様子が本文に詳しく記されるとともに、戦後の原水爆禁止運動に関連して、長崎市の高橋生平和大使がコラムで紹介されている。	
		公民	「企業のしくみ」において、株式の起源である東インド会社の船の挿絵解説に、長崎の出島での交易があったことが記されている。	「自衛隊と日米安全保障条約」では、在日アメリカ軍の配置を示す地図の中に、佐世保市の海軍基地の位置が記載されている。	「文化の継承と創造」において、日本各地の有名に祭りの1つとして、「長崎くんち」が地図上に紹介されている。		

観点		発行者	東京書籍	教育出版	清水書院	帝国書院
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	(1) 基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるよう工夫されているか。	地理	「地理スキル・アップ」を16箇所と「調査の達人」を20箇所設け、統計資料の使い方や様々な図・グラフの読み取り方など地理の学習に必要な技能と、調査学習で役立つ技能を系統的かつ確実に習得できるよう配慮されている。	見開き2ページごとに「ふりかえる」コーナーを設け、基礎的・基本的な知識の定着を確認できるような課題が示されている。また、「地理にアプローチ」を16箇所設け、地理の学習に必要な技能を習得できるよう配慮されている。		見開き2ページごとに「確認しよう」の項目を設け、基礎的・基本的な知識の定着を図るとともに、「技能をみがく」のコーナーを25箇所設け、地理の学習に必要な技能を習得できるよう配慮されている。
		歴史	各章の冒頭で小学校の学習の振り返りやこれから学習する時代をイメージさせ、巻末の「用語解説」において、重要な用語を解説して示し、基礎的・基本的な知識を習得できるよう工夫されている。	毎時間ごとの「ふりかえる ステップ1」において、学習した重要語句の確認を行い、基礎的・基本的な知識を確実に習得できるよう工夫されている。	毎時間設置されている「まとめてみよう」で、年表や資料を使用して学習内容を振り返り、整理し、基礎的・基本的な知識を習得できるよう工夫されている。	毎時間の「確認しよう」「説明しよう」では重要ポイントを確認する課題を提示し意識付けることで、基礎的・基本的な知識を確実に習得できるよう工夫されている。
		公民	各章末の学習の確認ページでは、重要語句の確認や関係性をまとめられるよう工夫され、基礎的・基本的な内容の定着が図られるよう配慮されている。	毎時間ごとに「ふりかえる」を設け、その時間の学習課題の振り返りや基礎的・基本的知識の確認ができるよう配慮されている。	各編の終わりに、まとめのページを設けることで、基礎的・基本的な内容の定着を図るよう工夫されている。また、本文の内容についての補足説明が豊富である。	毎時間の学習ごとの「確認しよう」や単元末の「学習をふりかえろう」により、基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得できるよう工夫されている。
	(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成することができるよう工夫されているか。	地理	見開き2ページごとに、学習課題に対する説明に取り組みさせるなど短時間で入る言語活動を設けることで、思考力・判断力・表現力等を育成することができるよう工夫されている。	章末の「学習のまとめと表現」では、「地図を使って確かめよう」とともに「表現しよう」が設けてあり、思考力・判断力・表現力等を育成することができるよう工夫されている。		章末の「学習をふりかえろう」では、「確認しよう」のほかに、「説明しよう」「探究しよう」の活動を行うことで、資料を活用しながら表現し、思考を深めて探究しようとする態度を身に付けることができるよう工夫されている。
		歴史	学習の最後に「歴史学習のまとめをしよう」を設け、多様な言語活動への取組や、プレゼンテーションによるまとめ方を紹介することで、思考力・判断力・表現力等を高めることができるよう工夫されている。	章末の「学習のまとめと表現」では、その時代のできごとや動きについて、資料などを基に自分なりの言葉で説明・論述する課題を設けることで、思考力・判断力・表現力等を高めることができるよう工夫されている。	章末に「まとめてみよう」のページを設け、知識・技能を生かして年表に整理する活動や、文章にまとめる活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成されるよう工夫されている。	各章のまとめとして設けられている「学習をふりかえろう」で知識や技能を生かして話し合い、その成果を発表する表現活動が取り入れられており、思考力・判断力・表現力等が育成されるよう工夫されている。
		公民	「公民にチャレンジ」のコーナーを20箇所設け、グループでの話し合いや作業ができるよう配慮するとともに、章末の学習のまとめでは、学習した用語を用いて説明する活動ができるよう工夫されている。	見開きページに「読み解こう」のコーナーを、各章に「言葉で伝え合おう」のページを設け、言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を身に付けられるよう工夫されている。	「もっと知りたい公民」や「深める公民」などの特設ページで、社会的事象や現代的課題について作業学習や調べ学習が設定されており、課題解決のために必要な力が育成されるよう工夫されている。	毎時間ごとに設定されている「説明しよう」や単元末のレポート作成などを仕組むことで、思考力・判断力・表現力等を養うための言語活動が設定されており、課題を解決するために必要な力が身に付くよう工夫されている。
	(3) 主体的に学習に取り組む態度を養い、学習意欲を高めることができるよう工夫されているか。	地理	「地理にアクセス」のコーナーを随所に設け、学習内容に関連した豊富な話題を示すことにより、生徒の興味・関心を高め、既習事項を基にして、新たな課題に主体的に取り組むことができるよう工夫されている。	見開き2ページごとに、授業の導入となるような補足説明資料「見てみよう」を掲載し、学習内容に関連したエピソードなどで生徒の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。		「羅針盤マーク」が付いたコラムにおいて、共生・環境・防災の3つの視点から未来の社会をつくるために参考となる取組を示すことにより、今日的課題に対する興味・関心を高められるよう工夫されている。
		歴史	「歴史スキルアップ」や「調査の達人」のコーナーを設け、史料や系図、絵画資料の読み解き方が示され、調査学習を進める上での基礎的・基本的な技能を身に付け、主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。	見開きの「ふりかえる」「ステップ2」では歴史的事象について時代間の共通点や相違点について説明したり、国や人物の相関関係を図に示したりする表現活動などを設定し、学習を主体的に取り組めるよう工夫されている。	「深めよう」が随所に設定され、縄文・弥生時代の暮らしの再現や「万葉集」「二条河原の落書」等の史料の読み取り、郷土資料館や博物館を利用した課題追究のあり方などを示し、学習に主体的に取り組めるよう工夫されている。	各章の初めに「タイムトラベル」を設け、各時代の生き生きとした人々の姿を迫力あるイラストによって提示することで、生徒が興味・関心や課題意識をもって学習に取り組めるよう工夫されている。
		公民	各章の初めに導入ページ、終わりにまとめページを設け、学習内容への興味・関心を高めるとともに、学習内容をまとめる活動を取り入れることで、見通しをもった学習活動ができるよう工夫されている。	章末に「資料庫」として、参考となる書籍やホームページを紹介し、さらに学習意欲が高まるよう配慮されている。また、「読んで深く考えよう」では、主体的に学習に取り組む態度が身に付くよう配慮されている。	序章や各編の冒頭に学習内容と関連する人物を取り上げ、その人物の活動を写真や著作などとともに紹介することにより、学習内容への興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む態度を養えるよう工夫されている。	「学習の前に」「クローズアップ」「連続コラム」「声」のコーナーなどで社会における身近な事例を知ることで、興味・関心を高め、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。

観点		発行者	日本文教	自由社	育鵬社	学び舎
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	(1) 基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるよう工夫されているか。	地理	「スキルUP」を37箇所設け、地図、写真、統計資料などの活用の仕方や調査学習の方法など、地理の学習に必要な技能が生徒の発達段階に応じて系統立てて習得できるよう配慮されている。			
		歴史	各編末の「学習の活用」では年表、地図などを用いて章のまとめを行うことができる。見開きに基本的な語句や事柄を確認するための「キーワード」コーナーがあり、基本用語の習得が図られるよう工夫されている。	各章末の「歴史豆辞典」や毎時間の学習ごとの「まとめにチャレンジ」が設定されており、その時間の重要ポイントに関する課題を与えることで、基礎的・基本的な知識の習得を図ることができるよう工夫されている。	各章のまとめでは年表、地図などの様々な問題を配置し、基礎的・基本的な知識・技能が習得できるよう工夫されている。また、地図を多く使用し、基本的な事柄を視覚的に習得できるよう工夫されている。	章末の「学習のまとめ」では基本問題のほか言語活動を通して表現力を高める問題も多く設定してある。巻末の年表では日本と世界の動きが詳しく明示しており、基礎的な知識定着できるよう工夫されている。
		公民	各編の終わりに図を使ったまとめのコーナーを設定することで、基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるよう工夫されている。	各題材の「ここがポイント」に、学習の要点をまとめて示すことで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができるよう工夫されている。	各章の終わりに「重要語句の確認」や図を使ったまとめを設定することで、基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるよう工夫されている。	
	(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成できるよう工夫されているか。	地理	章末の「学習のまとめ」に設けられているStep2では、基礎的・基本的な知識を関係図にまとめたり、文章で説明させたりする活動を行うことで、思考力・判断力・表現力等を育成できるよう工夫されている。			
		歴史	「とらえよう！時代の転換」を設け、写真、地図、年表などを効果的に用いて時代の転換や特色について考え、表現する学習活動を通して、思考力・判断力・表現力等が育成されるよう工夫されている。	各章のまとめに「どんな時代か」のページを設け、「ひとこと作文」に取り組み、学んだことを再構成して時代の特色を自分の言葉で表現できるようにすることで、思考力・判断力・表現力等が育成されるよう工夫されている。	見開きごとに「学習のまとめ」（右ページ下鉛筆マーク）を設け、学習した知識・技能を生かした表現活動を設定することで、思考力・判断力・表現力等が育成されるよう工夫されている。	各章の最後に「学習のまとめ」を設け、学習の振り返りとして印象に残ったことを自分の言葉で書く活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力等が育成されるよう工夫されている。
		公民	「チャレンジ公民」のページで問題解決的な学習課題を取り入れたり、「明日に向かって」のページで社会参画を意識した話し合い活動を行ったことにより、思考力・判断力・表現力等を育成できるよう工夫されている。	章末の「学習のまとめと発展」のコーナーでは「高齢化社会の中での年金制度のあり方」などの課題を示し、各章の学習内容を400字程度の文章で表現することにより、思考力、判断力、表現力等が高まるよう配慮されている。	「やってみよう」のコーナーでは課題の追究を通して、思考力・判断力が高まるよう工夫されており、「考えよう」「理解を深めよう」のコーナーにおいては、具体例を用いて、より発展的な理解を促すような資料が取り上げられている。	
	(3) 主体的に学習に取り組む態度を養い、学習意欲を高めることができるよう工夫されているか。	地理	「地理+」「自由研究」「地域からのメッセージ」では、地理の学習を振り返り、今日的課題を示すことで、学習内容の理解を深め、生徒の興味・関心を高めることができるよう工夫されている。			
		歴史	「でかけよう！地域調べ」では史跡や博物館の見学の仕方や視点が提示されている。また、本文見開きのなかで学習課題のすぐ下にキーワードが示され、学習の確認と活用主体的に取り組めるよう配慮されている。	本文見開きごとに「まとめにチャレンジ」を設け、主体的に学習の振り返りに取り組めるよう配慮されている。また、各章のまとめでは、章の学習内容を概観した上で、時代や人物比較などの課題に取り組めるよう配慮されている。	各章の最後に「学習のまとめ」で各時代を大観できるような構成になっている。時代を代表する人物や事項の整理、年表の穴埋めや写真資料の説明、資料や統計の比較などの活動を設定することで主体的に学習に取り組めるよう例示がされている。	見開きのタイトルが様々な視点で示され、学習者の興味を引くよう工夫されている。また、「歴史を体験する」が随所に設けられ、「火おこしに挑戦する」「綿から糸をつむぐ」等、調査方法を具体的に例示し、主体的な学習ができるよう配慮されている。
		公民	見開きページの最初に「学習課題」を大きく色つきで示すとともに、ポイントとなる語句を学習課題の下に示すことで、学習に主体的に取り組むことができるよう工夫されている。	「ミニ知識」のコーナーや「もっと知りたい」というページを設けることにより、興味・関心を高め、主体的に学習に取り組む態度を養えるよう工夫されている。	各章の「入口のページ」では、班活動を通して、ディベートや話し合いを行わせることにより、課題に対する興味・関心を高めるとともに、主体的に学習に取り組む態度を養えるよう工夫されている。	

具体項目

社会

観点		発行者	東京書籍	教育出版	清水書院	帝国書院
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	地理的分野	(4) 配る国にア 慮認のき地 さ識国き地 れを土、理 て養や広的 いう世いな いるこの界 が野方 が諸にや で地立考 き域つえ るにて方 よ对我が うすが身	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の諸地域」の学習では、各地方を追究するテーマが「なぜ～」という語句を使ったものに統一されており、各テーマを追究することで、各地方の特色を理解することができるよう配慮されている。 「日本の諸地域」の学習で追究するテーマを設定する場面では、各地方に関する疑問やキーワードを提示することで、生徒が様々な視点を持って学習することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の諸地域」では、日本を西南部、中央部、東北部の三つに分け、2～3の地方ごとにまとめ活動を行うことで、多面的・多角的に各地方の特色について学習できるよう配慮されている。 コラム「地理の窓」を42箇所設けることで、学習内容の深まりを図るとともに、地理的事象を多面的・多角的にとらえ、幅広い知識を身に付けることができるよう工夫されている。 		<ul style="list-style-type: none"> 「世界の諸地域」では共生を視点にしたコラムや世界各地の人々の具体的な姿を写真や解説で示すことで、グローバル化の進展に伴う共生社会の在り方について認識を深めることができるよう配慮されている。 「日本の諸地域」の関東地方では追究のテーマを「人口と都市」とすることで、大都市周辺の過疎問題を取り上げ、広い視野に立った国土認識を養うことができるよう配慮されている。
		き色較イ るや・日 よ地関 う域連 工の付 夫課け さ題て れを学 てと習 いらで えき、 か。諸 こ地事 と域象 的的を が比	<ul style="list-style-type: none"> 節末の「学習をふり返ろう」では、学習内容についての関係図が掲載され、様々な地理的事象を関連付けて学習できるよう工夫されている。 世界や日本の諸地域学習では、節ごとに自然環境や産業などの基本情報を押さえる「概観部」、学習テーマや追究テーマに沿って学習を進める「展開部」、地域的な特色をまとめる「終結部」の3つの段階に分け、地域的特色や課題を学習できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全編にわたりコラム「地理の窓」や今日的な課題に迫る特設ページを設け、学習した基礎的な知識と関連付けることで、地域的特色や課題をとらえることができるよう工夫されている。 「近畿地方」の内容で「歴史的背景をテーマとして地域をとらえよう」など、各学習内容ごとに、諸事象を関連付けて考えさせるヒントを設けており、地域的な特色や課題を追究できるよう工夫されている。 		<ul style="list-style-type: none"> 世界や日本の諸地域学習では、基礎・基本となる自然環境の学習から始まり、地形や気候を生活・文化・産業と関連付けることで地域的特色や地域の課題をとらえることができるよう工夫されている。 節末の「学習をふりかえろう」では、学習内容をふり返る学習活動を設け、地図や図表を用いて様々な地理的事象を関連付けて学習できるよう工夫されている。
		がす面ウ でる的 きと・様 も多々 よも角 うに的 配に資 慮適料 は、 さ切察 れに地 て表理 い現公 るす正 この事 と断象	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ州、アフリカ州、オセアニア州の章末「深めよう」では、環境保全にかかわる人々の取組を紹介することにより、環境、自然、産業、生活などを様々な視点から多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。 写真や図表などの資料の読解を促す「えんぴつマーク」を設定することにより、資料を読み取る際の視点や方法を身に付けられるとともに、地理的事象を多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「世界と比べた日本の地域的特色」では、人口割合や人口構成の変化を過去・現在・未来に渡って示すことにより、人口問題の課題と今後の見通しを多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。 「身近な地域の調査」では、調査活動に必要な視点と方法をまとめた「地域調査の手引き」を用いることで、地域調査における学び方を身に付けさせるとともに、社会参画の意識をはぐむ学習が展開できるよう工夫されている。 		<ul style="list-style-type: none"> 深く読み取らせたい写真やグラフ、主題図などに「資料活用」のマークを示すことにより、資料に関する問いかけや活用方法、着目すべき点を紹介し、事象を多角的に考察できるよう工夫されている。 世界の諸地域では、各地域の伝統的な暮らしと“いま”の暮らしをより身近に感じ取らせる写真を用いることにより、衣・食・住のそれぞれの視点から各地域の特色をとらえられるよう工夫されている。

具体項目

観点		発行者	日本文教	自由社	育鵬社	学び舎
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	地理的分野	(4) 配る国にア 慮認の付 さ識のき れを土、地 て養や、理 いう世、広 この界、的 が諸に、な で地立、見 き域つ、方 るにて考 対我がえ うすが身	<ul style="list-style-type: none"> 「学習の確認と活用」のコーナーを設け、1単位時間の学習課題について確認したり、学んだことを活用したりする活動を行うことで地理的な見方や考え方を身に付けることができるよう配慮されている。 見開き2ページごとに2～5個程度のキーワードを欄外に別枠で示し、学習内容を確認する場面でそれらを活用することで、日本や世界の諸地域の特色を理解することができるよう配慮されている。 			
		き色較イ るや・開 よ地、日 う域、本 工の連 夫の付 さ課、け れを学、世 てと習、界 い、で、の え、き、地 か、こ、域 こと、事 が、象 的、を で、比	<ul style="list-style-type: none"> 章末の「学習のまとめ」では、学習内容を関係図に表すまとめの学習活動を設けており、様々な地理的事象を関連付けて学習できるよう工夫されている。 全編にわたり「声 さんの話」のコーナーを設け、地域に暮らす人々の声がインタビュー形式でまとめられている。地域の人々の工夫や努力を紹介することで、地域の特色や課題をより明らかにすることができるよう工夫されている。 			
		がす面ウ で、的、 き、多、 ると、角 も、々 よ、な う、資 に、料 配、は、 慮、考 適、察 さ、切 切、し、 れ、地 に、理 表、現 い、公 る、正 か、事 こと、象 と、を 断、多	<ul style="list-style-type: none"> 「世界から見た日本の姿」では、自然災害、防災、減災にかかわる写真や被災した方々の体験談などを多数紹介することにより、防災対策について自助・共助・公助などの様々な視点から多面的・多角的に考察できるよう工夫されている。 「言語活動コーナー」では、図版の内容を読み取ったり、読み取ったことを基に思考・判断・表現したりする学習活動を設けることにより、地理的事象を多面的・多角的に考察し、自己の考えを深められるよう工夫されている。 			

具体項目

社会

観点		発行者	東京書籍	教育出版	清水書院	帝国書院
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	歴史的分野	(5) 配自すとのをア 慮覚るを特、我 さを愛通色、世 れ育情しを界が ててを踏の国 いる深、ま歴の ることめ我史の が国理背史の で民の解景大 できし歴さき し世せ各な よてにる時流 うの対こ代れ	<ul style="list-style-type: none"> 「この時代の特色をとらえよう」では関連図や比較表作成などの学習課題を設定するとともに、「歴史の学習を確認しよう」では年表を掲載することで、歴史の大きな流れや時代の特色を理解することができるよう工夫されている。 「野口英世」や「平塚らいてう」といった歴史上の人物を扱ったコラムを設け、先人が多くの人々の願いを実現したことを取り上げることで、我が国の歴史に対する理解を深めることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各章末では、時代の移り変わりを大観できる構造図や、時代を一覧できる歴史年表、写真やイラストを多く掲載することで、歴史の大きな流れや時代の特色を理解することができるよう工夫されている。 各節の単元構成が基本的に「世界の動き」、「日本の動き」の順で配列されており、世界の歴史を背景に我が国の歴史の大きな流れを、各時代の特色を踏まえて理解することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭では、写真などを用いて時代ごとに特色を把握しまとめるための具体的方法を提示し、章末においては各時代を振り返る作業を設け、歴史の大きな流れや時代の特色を理解することができるよう工夫されている。 古代から近現代までを通して、日本と諸外国、特に近隣諸国との歴史的つながりやかかわりについて系統的に記述することで、我が国の歴史について理解が深まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各時代の導入部では時代背景をイメージできるイラストなどを掲載するとともに、終末部では年表を基にした課題を設定することで、歴史の大きな流れや時代の特色を理解することができるよう工夫されている。 日本の歴史に足跡を残した人物をコラムとして取り上げ、その人物の努力する姿や業績、考え方などをより分かりやすく記述し、我が国の歴史に対する理解を深めることができるよう工夫されている。
		かこに文とにイ と気化と対す 歴 が付かもする 史 でせ相に、理上 できる互に、我解の よう国深がと人 配際協国尊物 慮調わつ諸の業 さ精の国態績 され神の育や文 てを歴を化育 い養こ史て遺 うとや産	<ul style="list-style-type: none"> 各章ごとに設定した「わたしたち歴史探検隊」では、歴史上重要な都市や文化遺産について調べることで、我が国や郷土の伝統・文化についての理解を深め、それらを尊重する態度を養うことができるよう工夫されている。 「歴史にアクセス」ではエルトゥールル号事件などを取り上げ、我が国と諸外国の文化や歴史が相互に深く関わっていることに気付かせ、国際協調の精神を養うよう配置されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「から歴史を探ろう」では、地域・人物・資料など様々なテーマから歴史を掘り下げることで、我が国や地域の歴史・文化についての理解を深めるとともに、それらを尊重する態度を養うことができるよう工夫されている。 「歴史の窓」では、各時代の事柄・人物に着目し、人物や事柄、国際関係などを深く学び、我が国の歴史や文化に対する理解と尊重の態度を育て、国際理解・国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「もっと知りたい歴史」では、各時代の生活や諸外国との関係が考察できる資料を用いて、我が国と諸外国の文化が深く関わっていることに気付かせ、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。 大黒屋光太夫や蓮如など歴史上の人物を紹介するコーナーを随所に設け、我が国の人物や歴史、文化に対する理解と尊重の態度を育てることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「人物コラム」では、4,3人の考え方や生き方を紹介し、「地域史」や「歴史をさぐるう」では各地域の特色ある事象をクローズアップし、人物の業績や文化遺産に対する理解と尊重の態度を育てることができるよう工夫されている。 巻末の年表では、特に我が国と諸外国の関係に焦点を当て、「歴史をさぐるう」では我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深く関わっていることに気付かせ、国際協調の精神を養うよう工夫されている。
		がす面う でる的 様 きと・多々 も角な よに的 配に資料 慮適考は さ切察し、 れに表、歴 い現公、史 るす正事、 かるに象 こ判をを と断多	<ul style="list-style-type: none"> 「歴史にアクセス」や「人物コラム」では、写真・グラフ・地図などの資料を豊富かつ効果的に配置し、歴史的事象を多面的・多角的に考察することができるよう配慮されている。 見開きごとに言語活動を設定したり、章末ごとにその時代の特色やまとめの言語活動を設けたりすることで、学習内容を振り返り、歴史的事象を多面的・多角的に考察し、表現することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「読み解こう」では、地図や写真などの多様な資料について、資料の読み取り方につながる力が身に付く具体的な問いかけが設けられ、歴史的事象を多面的・多角的に考察することができるよう配慮されている。 各章末の「学習のまとめと表現」のページでは、学習したことを基に資料を読み取り、年表や地図などに整理しながらまとめることで、適切に表現することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 古代の学習では、皇室や藤原氏などの系図が詳しく示されている。また、「聖徳太子と歴史の研究」において、歴史の解釈が史料をどう見るかによって変わることを紹介し、多面的・多角的な考察ができるよう配慮されている。 農民の復元家屋や服装、暮らしの挿絵や写真資料を用いて民衆の立場から時代像をとらえられるよう工夫されている。また、近代では東アジアに関する様々な資料が取り入れられ、多面的・多角的に事象を考察することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> コラム「技能をみがく」では現在と過去の立場からとらえることの大切さが説明されている。また、随所に各時代の様子を記述した資料を多く掲載し、多面的・多角的な視点で歴史的事象をとらえることができるよう工夫されている。 コラム「羅針盤」では、「自然環境」「人権」「交流」「平和」の4つのテーマに関する内容を掲載することで、歴史的事象を多面的・多角的に考察することができるよう配慮されている。

具体項目

社会

観点		発行者	日本文教	自由社	育鵬社	学び舎
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	歴史的分野	(5) 配慮を自覚する愛を育んで深めることができていけるよう配慮されていること。	<ul style="list-style-type: none"> 各時代の導入部において、写真等を充実させるとともに、「とらえよう！時代の転換」では時代の特色をとらえるための学習活動を設定するなど、歴史の大きな流れや特色をつかむことができるよう工夫されている。 「歴史を掘り下げる」では、生活の向上や文化の発展などに取り組んだ日本人の姿を取り上げ、国民としての自覚をもつことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> コラムやミニコラムを豊富に配置することで、本文の内容を詳しく説明しつつ歴史に厚みと興行きを与え、日本の歴史の大きな流れや時代の特色を理解することができるよう配慮されている。 自他の敬愛と協力を重んじる日本社会の姿や日本人の高い道徳性に関する記述が随所に見られ、国民としての自覚をもつことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各時代を象徴する歴史的事象を「～の世界へようこそ<虫の目>」で取り上げることで、我が国の歴史の大きな流れや時代の特色を理解することができるよう工夫されている。 コラム「人物クローズアップ」では、美徳を体現した二宮尊徳や国家や人生の岐路において道を切り開いた新渡戸稲造などを取り上げ、国民としての自覚をもつことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各章の導入部に時代背景をイメージできるイラストや写真を掲載するとともに、「章をふりかえる」では、時代の特色をとらえるための学習活動を設定するなど、歴史の大きな流れや特色をつかむことができるよう工夫されている。 世界史においては、日本と東アジアとのかかわりを重視して詳しく記述し、世界の歴史を背景に我が国の歴史の流れや特色を理解することができるよう配慮されている。
		かこに文とイと気化と対する歴史の人物の業績や文化の尊重の態度を育てるよう配慮されていること。	<ul style="list-style-type: none"> 「先人に学ぶ」では我が国の歴史上の人物、文化財などを取り上げ、業績や文化遺産に対する取組を紹介し、我が国の人物や文化に対する理解と尊重の態度を育てることができるよう工夫されている。 「でかけよう地域調べ」では富岡製糸場の特集など文化遺産に対する理解と尊重の態度を育てるよう配置し、コラム「+」では、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> コラムの中で「憲法を賞賛した内外の声」など国内外からの声を取り上げ、我が国の歴史や人物の業績に対する理解と尊重の態度を育てることができるよう工夫されている。 「人物クローズアップ」では日本人のなし得た業績や受け継がれてきた精神文化を取り上げ、我が国の文化を尊重し、国際協調の精神を養うことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「なでしこ日本史」など歴史上の人物を紹介するコーナーが充実しており、その人物の業績がこまやかに描かれ、偉人に対する理解と尊重の態度を養うことができるよう工夫されている。 「歴史ズームイン」では、浮世絵の影響や外国人から見た日本など我が国と諸外国の歴史が密接にかかわっていることに気付かせ、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各章の始めに「岩倉使節団が見た世界」など世界と日本が深く関わっていることに目を向けさせるコーナーを設け、国際理解、国際協調の精神を養うことができるよう工夫されている。 随所に配置されているコラムでは、歴史上あまり注目されない事柄、人物に着目し、我が国の歴史上の人物やその業績に対する理解と尊重の態度を育てることができるよう工夫されている。
		がす面ウでの的・様々な資料に配慮は、歴史的な事象を公正に判断すること。	<ul style="list-style-type: none"> 「とらえよう時代の転換」では、時代の変遷の様子について、自分の言葉で表現することを促す学習活動をし、多面的・多角的に考えることができるよう配慮されている。 「学習の確認」では、毎時間の学習内容を、資料を使用して考察ができるよう配慮してあり、章末の「学習の活用」では、各時代の特色を多面的・多角的に考察しながら図表を作成することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「もっと知りたい」などの特集ページなどでは、あらゆる立場の視点による資料を掲載することにより、多面的・多角的に考察できるよう配慮されている。 各章のまとめでは、「人物比較」や「ひとこと作文」「意見交換会」などの言語活動を設定することで、様々な意見を聞き、公正な判断力を高め、自分の言葉で適切に表現する力を養うことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題学習のコーナーを設け、「歴史人物Q&A」や「歴史新聞をつくろう」などの学習活動を設定することで、多面的・多角的な判断や自分の言葉を用いて表現することができるよう工夫されている。 「歴史の名場面」では、歴史上の節目となった名場面をイラストや写真を用いて紹介することで、各出来事の歴史上の意味や役割を、多面的・多角的に考察することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 第10章の冒頭にある「今、世界の子どもたちは」など、各時代の様子やその時の人々の思いを記述した資料を多く掲載することで、一つの事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断する力を養うよう配慮されている。 「フォーカス」では様々な都市、人、事件のこを取り上げ、時代を多面的・多角的に考察し、公正に判断することができるよう工夫されている。

具体項目

社会

観点		発行者	東京書籍	教育出版	清水書院	帝国書院
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	公民的分野	(6) めるな基よ配教的にも主主義に、公民と理解でき深	<ul style="list-style-type: none"> 第3章「現代の民主政治と社会」の導入部「だれを市長に選ぶべき？」では、立候補者のスローガンについて意見を出し合う活動が仕組まれており、民主主義に関する理解を深めることができるよう配慮されている。 コラム「公民にアクセス」では、随所に人権問題、政治問題、経済関連、国際的な課題など、幅広い内容を取り上げることにより、公民としての基礎的教養を培うことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「言葉で伝え合おう」では、地域の課題について調べ、解決策を提言する活動を通して、主体的に社会に参画する力を養い、民主主義に関する理解を深めることができるよう配慮されている。 学習内容に関連して「見てみよう」のコーナーを設け、時事問題や学習に関連する具体的な出来事を取り上げ、公民としての基礎的教養を培うことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「民主政治の成立」では、中学校生活と政治との結び付きについて考える活動を導入としており、政治の役割を身近なものとしてとらえることができるよう配慮されている。 「憲法改正について考える」のコーナーを設け、他国の憲法改正手続きとの比較を行うことで、憲法の重要性を確認するとともに、憲法改正の動きを公正な視点から考えることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「私たちの選択で決まる民主主義」では、中学生が地域社会を動かした事例を取り上げており、民主主義を身近な問題と関連させて理解することができるよう工夫されている。 「新聞について知ろう」のコーナーでは、新聞の良さを知るために、新聞の特徴や構造を理解させるとともに、同事例についての新聞各社の記載内容を比較することで、価値判断の違いがあることに気付かせるよう工夫されている。
		かて自の方イ深め愛性を認識とをせ、もに、見方野的自覚や調	<ul style="list-style-type: none"> 「現代社会の見方や考え方」では、「対立と合意」「効率と公正」について、学校や自治会などの身近な例を取り上げることにより、具体的に考え、理解することができるよう工夫されている。 「私たちの生活と文化」では、世界のあいつの事例、日本の主な年中行事や食文化の写真が掲載してあり、文化の役割や伝統文化の継承について考えさせるとともに、異文化を理解することで自国への愛情が深まるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 巻頭では災害や紛争、環境問題などの写真、巻末では活躍する日本人や我が国の文化などの写真を掲載し、国際社会の課題への意識付けや、日本人としての自覚が高められるよう配慮されている。 「私たちがつくるこれからの社会」では、「対立と合意」「効率と公正」の考え方について図を示し、マンションの決まりを例として取り上げることで、具体的に現代社会の見方や考え方が理解できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「ともに生きる社会をめざして」では、体育館の利用方法を事例として取り上げ、「対立と合意」「効率と公正」といった現代社会についての見方や考え方について、理解を深めることができるよう配慮されている。 「深める公民」では、国内のことだけではなく外国での事例を併せて掲載し、国際的な視野に立って社会的事象を考察することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 随所に設けられた「YES NO」のコーナーに対立軸を設定することで、さまざまな立場からの見方や考え方を養うことができるよう配慮されている。 東日本大震災における日本人の行動を賞賛する外国人の声を取り上げたり、宗教に関するクイズなどを提示したりすることで、生活・文化や宗教の多様性についての理解が深まるよう配慮されている。
		がす面ウでと多角にもよ的に配適考は、社会的公正に判断	<ul style="list-style-type: none"> 「深めよう」において、伝統文化・宗教、環境・エネルギーなどの今日的課題について話し合ったり、よりよい未来を構想したりする活動を設定することで、社会的事象を適切に表現できるよう工夫されている。 「公民にチャレンジ」や「確認」のコーナーでは、現代社会の諸課題を提示し、小集団による話し合いやシミュレーションなどの参加型学習を行うことにより、多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「公民の窓」のコーナーを随所に設け、時事的なテーマに関する具体的な事例の資料を読み深めることにより、多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 各見開きごとの「ふりかえる」や各章ごとの「学習のまとめと表現」において、学習内容を確認し、自分の言葉で表現したり、発表したりする活動を通して、社会的事象を適切に表現することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「もっと知りたい公民」のコーナーを随所に設け、図版や写真を中心に多様な資料を掲載することにより、生徒の興味・関心を高め、社会を多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 各編のまとめでは、言葉について説明させる課題を設定することで、社会的事象を適切に表現することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「トライアル公民」のコーナーでは、「対立と合意」「効率と公正」を踏まえ、自分の意見をまとめたり、さまざまな立場から話し合ったりする活動を通して、多面的・多角的に考察できるよう配慮されている。 「説明しよう」のコーナーや「学習をふりかえろう」において、テーマに沿って言語活動を行うことにより、社会的事象を適切に表現することができるよう配慮されている。

具体項目

観点		発行者	日本文教	自由社	育鵬社	学び舎
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて確かな学力の育成を図る上での特長	公民的分野	(6) める基礎と民主主義に関する理解を深めること	<ul style="list-style-type: none"> 「一票の格差の問題を考えよう」においてディベート学習の展開を紹介しており、民主主義に基づいて行われる選挙の理解を深め、公民としての基礎的教養を培うことができるよう配慮されている。 「アクティビティ」では、選挙制度や地方財政などについて、具体的な作業学習を行うことによって、民主主義に関する理解を深めることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 現代社会についての学習では、「学校とルール」において、身近なルールの意義を学ぶことを通して、公民として必要な基礎的教養を培うことができるよう配慮されている。 公民学習のまとめとして、政治や安全保障、環境問題を論題としたディベート学習に取り組ませることにより、公民として必要な思考力や表現力などを養うことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「やってみよう」では、新聞の社説比較や模擬裁判などの取組を通して、生徒の関心・意欲を高め、公民としての基礎的教養を培うことができるよう配慮されている。 学習する社会的事象に関連のある人物写真や新聞記事を多く取り上げ、公民として必要な基礎的教養を培うことができるよう配慮されている。 	
		か。自国の重要視を深めること	<ul style="list-style-type: none"> 合唱コンクールの練習に関する話合いという身近な例を基に、「対立と合意」「効率と公正」といった現代社会をとらえる見方や考え方の基礎を培えるよう配慮されている。 第5編「私たちの課題」では、レポート課題の例として、「変わる国連のはたらき」「世界の貧困問題の解決」などを挙げ、国際協調の重要性を認識し、国民的自覚を高めることができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「対立と合意」「効率と公正」についての学習では、「学校生活での対立と合意」などの具体的事例を繰り返し取り扱うことで、現代社会の見方・考え方についての理解が深まるよう工夫されている。 国際社会の単元では、特設ページにおいて領土問題、国連改革、拉致問題などを取り上げることで、国民的自覚を高め、国際協調の重要性に気付くことができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「文化祭の劇主役の決定」という具体的事例を取り上げて考察させることにより、「対立と合意」「効率と公正」という現代社会をとらえる見方や考え方を養うことができるよう工夫されている。 「国際社会の入口」では、外交上の課題についてのランキング（順位付け）活動を通して、国際協調の重要性を認識させ、国民的自覚を高めることができるよう配慮されている。 	
		がす面ウでるとも多角的に配慮されて表現在るか。こと	<ul style="list-style-type: none"> 各章末の「学習の整理と活用」では、現代社会の見方や考え方の基礎を活用した「合意を考えるための問題」を設定し、社会的事象を多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 各見開きの最後には、学習内容をまとめ、振り返る「学習の確認と活用」を設定することで、社会的事象を適切に表現することができるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「もっと知りたい」のコーナーでは、憲法第9条について複数の異なる解釈を紹介し、考えさせることにより、憲法について多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 各章の「学習のまとめと発展」では、学習したことを自分の言葉で表現する活動を通して、社会的事象を多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各見開きの最後には、「説明しましょう」「まとめてみましょう」などの学習内容を深める課題が提示され、言語活動を通して多面的・多角的に考察することができるよう工夫されている。 各章末の「学習のまとめ」には、読み取りや説明等の言語活動を設定することで、社会的事象を適切に表現することができるよう配慮されている。 	

具体項目

社会

観点		発行者	東京書籍	教育出版	清水書院	帝国書院	
3 の 学 習 効 果 や 表 現 や 体 裁 の 特 長 見 や す さ 等 、 ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン の 視 点 か ら	(1) 豊 か な 記 述 内 容 と な っ て い る か 。 質 ・ 量 と も に	地理	・因果関係などが分かりやすく記述されており、平易な表現を使用することで、生徒が一読して学習内容を理解できるよう配慮されている。	・難解な用語には「注」による解説を設けたり、見開き2ページごとに学習内容と関連するページを欄外に示したりして、生徒が内容を的確に理解できるよう配慮されている。	/	・丁寧に分かりやすく本文を記述するとともに、用語の解説をページごとに示すことで、生徒が学習内容を理解できるよう配慮されている。	
		歴史	・全体を通して平易な文章で記述されている。また、ふりがなにゴシック体を使用し、小さな文字が読み取りにくい生徒に配慮されている。	・本文中の難解な用語を解説する注釈や、本文中の語句との関連を示す資料の番号が記載されており、学習内容が分かりやすくなるよう工夫されている。		・学習内容に関するコラムや歴史上の人物に関するコラムにおいて、分かりやすく丁寧に説明がなされており、より深い理解ができるよう配慮されている。	・人々の生活や文化について詳しく記述するとともに、写真資料との関連付けを図ることで、生徒が興味・関心を高めることができるよう配慮されている。
		公民	・語句の下に関連ページを示したり、巻末に「用語解説」を掲載したりすることで、本文内での用語説明を減らし、簡潔な文章となるよう工夫されている。	・本文の語句に対する具体的な解説や補足が側注により丁寧になされており、本文が簡潔にまとめられている。		・本文が簡潔に記載されており、具体的な解説や補足が、「注」を設けて丁寧になされている。	・社会的事象について、具体例を挙げて記載するとともに、大切な用語には「解説」を設けることで、分かりやすい記述内容となっている。
	(2) 写 真 ・ 挿 絵 ・ 図 表 な ど は 、 学 習 効 果 を 高 め る に 向 け て い る か 。	地理	・各章ごとに大きな写真が提示され、学習意欲を高めることに効果的である。また、グラフも国や地域を比較できるように複数提示されており、学習効果が高まるよう配慮されている。	・章の始めに地図を大きく掲載し、学習活動中に地図を活用しやすいよう配慮されている。また、衛星画像を折込で大きく掲載することにより、地理の学習に対する興味・関心が高まるよう配慮されている。	/	・章の始めの見開きページに大きな写真を数枚掲載し、学習への興味・関心が高まるよう配慮されている。また、世界の諸地域、日本の諸地域ともに雨温図が適切に配置されており、生徒の理解が深まるよう配慮されている。	
		歴史	・各単元の導入場面で、多くの写真を掲載することで学習意欲が高まるよう工夫されており、小学校社会科の学習との系統性に配慮されている。	・写真や資料を基にキャラクターが問題を提起して学習課題がつかみやすくなるよう工夫されており、学習意欲が高まるよう配慮されている。		・人名さくいんに小学校で学習した主な人物のイラストを掲載しており、小学校社会科の学習との系統性に配慮されている。	・資料を大きく見やすく提示するとともに、我が国の伝統や文化を取り上げた写真資料を多く掲載し、学習意欲が高まるよう配慮されている。
		公民	・「『効率と公正』マーク」「分野関連マーク」「ティブレイク」など、生徒の興味・関心を高めたり、他分野や既習内容と関連付けたりするよう工夫されている。	・点字に実際に触れさせるページを設けたり、各章の始めにその章の学習内容に関連のある中学生の写真を用いたりするなど、学習意欲を高めることができるよう工夫されている。		・本文の補完として「もっと知りたい公民」「深める公民」の特設ページを儲け、関連資料をまとめることで、学習をすすめるよう配慮されている。	・見開きページの最初の「クローズアップ」でその時間に学習する内容に関連のある写真等の資料を大きく掲載し、生徒の興味・関心を高めることができるよう工夫されている。

観点		発行者	日本文教	自由社	育鵬社	学び舎
3 の 学 習 効 果 や 使 い や す さ 、 表 現 や 体 裁 の 特 長 見 や す さ 等 、 ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン の 視 点 か ら	(1) 豊 か な 記 述 内 容 と な っ て い る か 。 質 ・ 量 と も に	地理	本文の脚注欄に「連携コーナー」を設けて歴史的分野・公民的分野や小学校の学習内容との関連を分かりやすく示しており、生徒が学習内容を関連付けて理解できるよう配慮されている。			
		歴史	「歴史を掘り下げる」などのコーナーを設け、補足事項や関連内容を具体的に示すことによって、分かりやすい記述内容となっている。	「コラム」や「ミニコラム」で、本文に関連する事項を、より詳しく発展させた歴史読み物を分かりやすく記述している。	本文を補完するために「歴史ビュー」や「人物クローズアップ」などのコラムや特集を充実させ、分かりやすく記述されている。	本文の字体を同一にすることで、読みやすくするとともに、歴史の舞台に焦点を当てる「フォーカス」において、その時代を生きる人々の姿を詳しく記述している。
		公民	補足説明や関連資料を本文の周囲に配置することで、本文が読みやすくなるよう配慮されている。	本文中に太字の語句を多く用いることで、基礎的・基本的な知識の習得を確実にし、分かりやすい記述となるよう配慮されている。	平易な文章表現で、事象を丁寧に記述し、内容を具体的に認識できるよう配慮されている。	
	(2) 写 真 、 挿 絵 、 図 表 な ど は 、 学 習 内 容 と の 関 連 や 学 習 意 欲 を 高 め る と し て 考 え ら れ て い る か 。	地理	章ごとに写真が多く掲載され、多くの情報を得ることができる。また、過去と現在の写真の比較も多く取り入れられ、学習効果が高まるよう配慮されている。			
		歴史	各編に設けられた「図版特集」において、当時の生活の様子について、人々のくらしがイメージしやすいよう配慮されている。	鎌倉幕府や室町幕府などの政治の仕組みを表した図表は、文字を大きくして色で分けて分かりやすくするなど、学習効果が高まるよう配慮されている。	人物写真を多く掲載し学習意欲を高めるとともに、豊富なイラスト資料を基に、時代の大きな流れを俯瞰的にとらえることができるよう配慮されている。	貴重な写真資料が随所に掲載されている。また、巻末には写真や図表を取り入れた10ページに及ぶ年表を掲示し、各時代の特色を分かりやすく示し、学習意欲が高まるよう配慮されている。
		公民	キャラクターの吹き出しに課題や読み取りの視点を提示することによって、生徒の主体的な学習を促すよう工夫されている。	人物を中心に厳選された写真を用いることで、学習効果を高めるとともに、本文のスペースを大きく確保するよう配慮されている。	「日本の伝統文化」では多数の写真資料を用い、生徒が日本や郷土の伝統文化に対する関心を高め、誇りに思う心を養うことができるよう配慮されている。	

具体項目

社会

観点		発行者	東京書籍	教育出版	清水書院	帝国書院
3等学習効果や使いやすさ、表現や体裁のイン見やすさの特長	(3) 用紙、レイアウトや色、製本等について、文字の大きさ、適切に挿絵の配慮が	地理	<ul style="list-style-type: none"> 「日本の諸地域」で地方を概観するページでは、自然環境を表した地図と各地の雨温図を配置することで、地形と気候の関連をとらえることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 文字サイズを大きくしたり、判読しやすいフォントを用いたりして、生徒が読みやすくなるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各章でページの背景色を統一させるとともに、章末において各時代を振り返る作業を設けることで、歴史を大観できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図では、色彩の違いにより高低差をはっきりさせたり、地名や地形名の文字を白抜きにしたりして、情報が読み取りやすくなるよう工夫されている。
		歴史	<ul style="list-style-type: none"> 地図やグラフなどの図表は読み取りやすい色を使用しカラーバリエーションに配慮するとともに、見開きの時代を表す年表が各ページに付けられている。 	<ul style="list-style-type: none"> 本文の文字が大きく、読みやすいよう配慮されている。また「点字のれきし」において、触って体感できる点字の加工が施されている。 		<ul style="list-style-type: none"> グラフや地図などの資料において、識別しやすい色を使用するとともに、各部で使用する色を統一することで、見やすくなるよう配慮されている。
		公民	<ul style="list-style-type: none"> 章ごとにベースとなる色を統一し、見やすさとともに、単元ごとのまとまりを生徒が意識できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に淡い色を用いたり、タイトルや図表等の枠の角を丸くするなど、視覚的に柔らかみをもたせるよう配慮されている。 		<ul style="list-style-type: none"> 判読しやすい書体を使い、本文以外の資料等の背景に色を付けることで、本文が読みやすくなるよう工夫されている。

具体項目

観点		発行者	日本文教	自由社	育鵬社	学び舎
3等 らの 表記 ・ユニ バー サル 表現 や体 裁の イン の特 長 の視 点か	(3) 用、 レイ アウ トや 色 彩、 製本 等に つい ては、 大き さ、 適切 に挿 絵の 活	地理	・地図やグラフ、コラム欄の背景色など全体的に明るさや濃さを抑えた色が多く用いられており、落ち着いた学習に取り組むことができるよう配慮されている。			
		歴史	・見開き左ページに年表を配置することで、学習している時代や世紀が常に確認できるよう配慮されている。	・単元を通し番号にし、章末に「歴史豆辞典」を配置することで、章のまとまりが分かりやすくなるよう配慮されている。	・章ごとに資料の背景色が統一されていたり、写真や図表を大きく掲載したりして、見やすくなるよう配慮されている。	・判型をA4判にし、本文を補完するための写真や地図を数多く掲載し、大きくして配置することで見やすくなるよう工夫されている。
		公民	・各見開きの「学習課題」と「学習の確認と活用」は同じ色を使い、毎時間の授業の中で学習課題に対するまとめと振り返りを意識することができるよう工夫されている。	・各単元のページに、「ここがポイント」の欄や図版等が効果的に配置されている。また、文字は大きく見やすくなるよう工夫されている。	・見開きページの上部に写真や図を大きく掲載するとともに、グラフや図には多くの色を用いることで、見やすくなるよう工夫されている。	